



1-5. わが家の避難行動 (マイ・タイムライン)

ハザードマップを確認しながら、空白部分に必要事項を記入・コピーして家族で共有しましょう。

地震・津波	自宅は津波浸水想定区域内にあるか ☐ ある ☐ ない 揺れやすさは 色 液状化危険度は 色
	津波浸水想定区域の場合は 避難するタイミング、避難する場所 (実際に避難するときどこへ避難するのか、危険を感じたらどこへ逃げるのか考えてみましょう。)
	地震発生後、揺れがおさまったら、わが家は、津波警報・大津波警報を待たずに 海拔: m (津波来襲時緊急避難建築物 (空地) もしくは高台等) へ避難します。移動時間:
	家が被災し、生活が困難な場合は、 (避難所等) へ避難します。

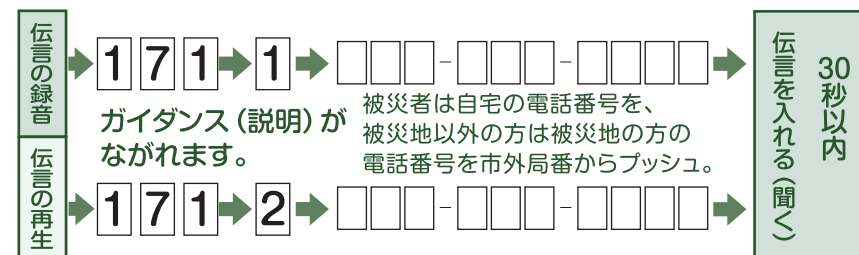
風水害・土砂災害	自宅は洪水浸水想定区域内にあるか ☐ ある ☐ ない 自宅は洪水による家屋流失のおそれのある区域内にあるか ☐ ある ☐ ない
	自宅は内水氾濫浸水想定区域内にあるか ☐ ある ☐ ない 内水氾濫浸水深は: m
	自宅は土砂災害警戒区域内 (急傾斜地、土石流) にあるか ☐ ある ☐ ない
	自宅は高潮浸水想定区域内にあるか ☐ ある ☐ ない 自宅は高潮による家屋倒壊等氾濫想定区域内 ☐ ある (氾濫流、越波) ☐ ない
	風水害に関する情報を収集し、危険を感じたり、避難情報を入手したらわが家は、 ☐ 自宅に待機し、状況に応じて垂直避難します。(※むやみに外出せず、情報収集に努める) ☐ (避難所、親戚・知人宅など) へ水平避難します。移動時間:
	水平避難の途中で危険を感じたら、 へ緊急的に垂直避難します。移動時間:
家が被災し、生活が困難な場合は、 (避難所等) へ避難します。	

わが家の緊急連絡先

名 前	緊急連絡先	名 前	緊急連絡先

災害用伝言ダイヤル

災害時に NTT から提供される「声の伝言板」です。



インターネットでも登録・確認できます。

災害用伝言板 (web171)

<https://www.web171.jp> にアクセスしてください。

2-1. 鎌倉近世近代歴史地震年表

「元禄地震」から「大正関東地震」まで

西 暦	年・月・日	被災 地	被害の概要
1697	元禄 10.10.12 (江戸時代)	武蔵・相模 (鎌倉)	鎌倉が最も激甚であったという。鶴岡八幡宮で堂社と鳥居が倒れたほか、寺社や市中の民家に被害が出たことが記録に見える。
1703	同 16.11.22 (江戸時代)	武蔵・相模・安房・上総 (鎌倉)	【元禄地震】江戸・小田原・鎌倉が激甚といい、とくに津波で伊豆方面や房総半島外房のほか、相模沿岸部が被災した。鎌倉では、「切通七口」等通行路が各所で崩落し、町屋や小坪道・江の島・六浦道が破損。寺社では鶴岡八幡宮・建長寺・円覚寺・東慶寺・明月院・浄智寺などに大きな被害が出たという。津波は「二の鳥居」まで浸水して光明寺ほか海浜部に被害を及ぼし、当時材木座にあった「荒居閻魔堂」(円応寺)を壊滅させた。
1707	宝永 4.10. 4 (江戸時代) 同 4.11.23	関西・東南海 (小田原) 武蔵・相模 (鎌倉)	【宝永地震】駿河・三河・遠江・紀伊・摂津の諸国の被害が甚しく、津波が伊豆半島から九州沿岸、瀬戸内海に及んだと伝える。小田原にも被害があったというが、詳細は不明。関東は比較的軽微であったようである。 【宝永富士山噴火】武蔵・相模・駿河の三国では、降灰や降砂のため河川や田畑に大きな被害があったという。
1853	嘉永 6. 2. 2 (江戸時代)	相模 (鎌倉)	【嘉永小田原地震】小田原城の天守閣で瓦と壁が落ちたという。小田原領で壊家約1,000 棟、死者24 人で、鎌倉の各所にも被害の記録がある。
1854	安政 1.11. 4 (江戸時代)	東海・東山・南海諸道 (鎌倉)	【安政東海地震】被害は沼津から伊勢に至る沿岸と、甲斐・信濃・近江・越前・加賀に及び、津波が房総から土佐までの沿岸部を襲ったため、さらに拡大したという。倒壊・焼失約30,000 棟、死者は2 ~ 3,000 人。三浦郡浦賀湊・同大津三崎・同大田和村・金沢・鎌倉・江の島・藤沢などに地震及び津波被害の記録がある。
1854	同 1.11. 5 (江戸時代)	畿内・東海・東山・北陸・南海・山陽道 (鎌倉)	【安政南海地震】前の地震の30 数時間後に発生。被害は近畿・中国・四国全部と九州・中部地方の一部に及んだという。津波は串本(和歌山県)で最大約15mの推定高があり、死者は全体で数千人であった。三浦郡大田和村で再度津波浸水の記録があることから、相模沿岸部は二日にわたって津波を受けたと考えられる。
1855	同 2.10. 2 (江戸時代)	江戸・相模 (鎌倉)	【安政江戸地震】震源地は江戸のほぼ直下と推定され、同所町方の被害は壊家及び焼失家屋約14,000 棟、死者約7,000 人に達したとされる。相模では一宮のほか厚木と藤沢にかなりの損害があり、三浦郡では上宮田の陣屋に被害があり、ここで6名の死者と多くの負傷者があったという。鎌倉の常盤村で民家一軒全潰か。なお、津波の有無については定かでない。
1880	明治 13. 2.22	東京・神奈川	横浜で多くの煙突が破損し、民家の壁が崩れたという。東京の被害は軽微であった。
1894	同 27. 6.20	東京・神奈川 (鎌倉)	【明治東京地震】東京・川崎・横浜で死者31 人、負傷者157 人との記録がある。東京・横浜が激甚で、鎌倉にも被害があったというが、詳細は不明である。
1909	同 42. 3.13	千葉・神奈川	横浜の被害が激しく、煉瓦壁や煙突が崩れたという。
1923	大正 12. 9. 1	関東一帯 (鎌倉)	【大正関東地震】東京都・神奈川県・千葉県・茨城県のほか静岡県東部にまで甚大な被害を及ぼした。鎌倉と横浜が激甚といい各所で地割れを生じ、建物の倒壊や火災の発生・広範囲にわたる延焼があった。また、津波が相模湾沿岸に襲来し、鎌倉では材木座や坂ノ下などが広く浸水した。被害は全体で約105,000 人が死亡あるいは行方不明になったとされる。神奈川県の被害は、死者約29,000 人、行方不明約2,000 人、負傷者約19,000 人、家屋全壊約47,000 棟、全焼約69,000 棟、流失約400 棟などである。
1924	同 13. 1.15	東京・神奈川・山梨 (鎌倉)	【丹沢地震】神奈川県西部で発生。大正関東地震後の最大の余震か。死者19 人、負傷者638 人で、損失家屋は住家全壊約1,200 棟、ほかに倉庫や納屋などの全壊は約6,000 棟等であったという。鎌倉でも建物などに被害あり。